

「地域文化に関するグループ研究助成」中間報告

平成 28 年 1 月 28 日

公益財団法人江北図書館

「近代日本における自立的地域文化創生事業の研究―滋賀県江北図書館の事例に即して」

1 研究対象地域の地勢

①北近江・滋賀県伊香郡（現長浜市東北部）の地勢は、若狭・越前・美濃に通じ、古来より文化度の高い地域でした。

②明治維新後は郡役所や税務署、登記所等、役所の他に、窮民・罹災者救助等を目的とした伊香相救社（1881 年）、融通会社・江北銀行（1883 年）、木之本製絲（株）（1896 年）、木之本農業補習学校（伊香農学校）（1896 年）、伊香銀行（1899 年）等、近代化を担う機関が相次いで設立された。江北図書館もこのような環境の中で設立（1906 年）され、さらに、伊香病院（1915 年）、木之本実科高等女学校（1917）、育英機関（1919 年）、等が設立された。

2 研究対象の紹介

①旧伊香郡出身の弁護士杉野文彌氏が郷里中之郷に開設した「杉野文庫」（1902 年設立）が前身

② 伊香郡役所の全面的協力により郡役所内に財団法人江北図書館設立（1906 年）伊香郡木之本村

基本財産：杉野文庫の蔵書 7,487 冊及び 1 万円（杉野氏拠出）、全国 170 者からの寄贈本 1,295 冊

③郡制廃止に伴い、明治・大正期の郡行政資料をすべて保存。散逸なく全国でも珍しい 1 次資料

④郡制廃止後、公的な図書館が未発達時代から地元の自主的運営により地域の文化を守ってきた。

⑤恒常的な資金不足のため、建物の老朽化、江戸・明治・大正期の貴重史資料の保管と活用に課題

⑥滋賀大学と貴重史資料の「使用貸借契約」成立（2014 年 12 月）により、保存と活用の環境が整う

3. 研究目的

- ① 1世紀を超えて自立的な図書館運営を行い、地域社会の文化・学術・教養の発展に貢献してきた公益財団法人江北図書館の事業を検証し、近代日本における自立的文化創生事業の特徴を解明する。
- ② 江北図書館所蔵の旧伊香郡役所文書や伊香相救社文書等の資料を研究し、近代における郡行政の全容や相互扶助機能を明らかにする。

4. これまで得られた知見

以下保管されている貴重資料の保存状態の確認を行うとともに書誌情報の検証と適正な分類作業を進めた。

- ・伊香郡役所文書 往復・郡政・郡長引継・郡報・郡会・財政・統計・戸籍・選挙・勸業・運輸・交通・学事・軍事・兵事・訴訟・衛生・災害・救恤・社会事業・団体・皇室・社寺
- ・伊香相救社文書 窮民救済や罹災者救済、医療事業などを目的とし、郡内の約9割の世帯が加入

設立趣意書、出資金帳簿類・証書・書簡、救済事業の詳細等

- ・伊香郡愛郷会 育英事業 育英資金交付帳簿等
- ・図書館運営資料 寄付行為 図書館運営規定、運営事績等
- ・その他（『近江伊香郡志』関連資料、柳ヶ瀬関所関連文書、伊香郡に絵図、江北銀行文書等

5. 進捗状況

- ①資料整理（書誌情報の確認と適正な分類作業）および正確な目録の作成
- ②近世の書籍のデジタルデータ化、近代デジタルアーカイブで閲覧できない書籍のデジタル画像の作成
- ③研究会の開催 第一回（平成27年8月24日）、第2回（平成28年1月12日）目録の点検と貴重史料の概要把握

6. 今後の予定

- ①江北図書館が果たしてきた地域創生事業の歴史的意義を検証し、今後の文化的街づくりの推進に資す
- ②テーマを分担（図書館運営・郡役所・伊香相救社等）して各々研究を深める
- ③地元湖北地域において研究報告を行い、地域への公開と連携を図りつつ事業を展開して行く